

総括

カーナビの2011年。

エポックな製品で紐解く——現代カーナビゲーションの今。

年々熟成が進みこれ以上の進化はないのでは、と思いきや、2011年のナビはそれぞれ驚くべき機能をまとい、我々の前に姿を現した。最新ナビのスゴサはどこまで来ているのか。激動の1年を、大きな話題を振りまいてくれた代表的機種を元に、ここでじっくりと総括してみよう。

実写画面にルート案内が！究極の領域に迫り着いた

毎年新たな機能を搭載し進化し続けてきた、カロツツェリア・サイバーナビだが、2011年モデルは、歴代のモデルに比べても衝撃の大きさでは図抜けていた。さらに秋には、夏モデル以上のインパクトを持って、コストパフォーマンスに優れた新機軸モデル、AVIC-ZH07も新登場。

さて、それぞれの注目を改めて掘り下げてみたい。

まずは、上位機種、AVIC・VH09CSなどに搭載されていた「ARスカウターモード」。この機能はとにかくインパクト絶大。

カーナビの歴史において、ルート案内をどのようなビジュアルで見せるかというあたりは、各社がしのぎを削ってきた部分。これまでも上

空から立体的に俯瞰するタイプなど、センセーショナルなものがある。その都度登場してきた。そしてこの「ARスカウターモード」。これはもはや究極だ。なんと、ドライバーが見えている景色が実写でそのままナビ画面に映し出され、その映像にルート案内表示が重ねられる。これまでのナビ画面だと、曲がるべき交差点が今なのか次なのか迷ってしまうこともあったが、実写にルート表示が重ねられることにより、このような分かりにくさが、「ついに」解消されることになったのだ。景色を映し出すだけなら簡単だろう。しかし、景色と地図データをリンクさせ、その上でルート誘導のための情報を重ねるのだ。この技術は、並大抵ではない。

「ARスカウターモード」のすごさはそれだけにとどまらない。前方の信号の色を感知して、青信号になったことを教

epoch-making product #01 カロツツェリア「サイバーナビ」



carrozeria
AVIC-ZH07

価格：オープン
(実勢価格：15万8000円)

※パイオニア ☎ 0120-944-111
carrozeria.jp

シンプルモデルのサイバーナビ。2010年モデルと比べると、5.1chサラウンドの対応がない割り切りはあるものの、それ以外の性能はむしろ上。「ARスカウターモード」を搭載せずとも、十分にハイエンド・カーナビ。

地図データにない道を自動作成!?



地図データにない道を走行した場合、その走行軌跡データをもとに、その道が地図上に自動作成される機能「ロードクリエイター」。作成した道路は、「ルート使用/不使用」、「地図表示/非表示」の編集が可能。さらに、最初は片側通行ルートとして認識され、次に同じ道を逆方向で走ったときに初めて、両側通行可能なルートとなる。さらに「マップチャージ」(通信かSDカードを介して最新データをナビに取り込む)により、地図データはいつも最新を保てる。